

第4回

内分泌攪乱化学物質問題に関する 国際シンポジウム

■ 2001年12月15日(土)~17日(月) ■ つくば国際会議場

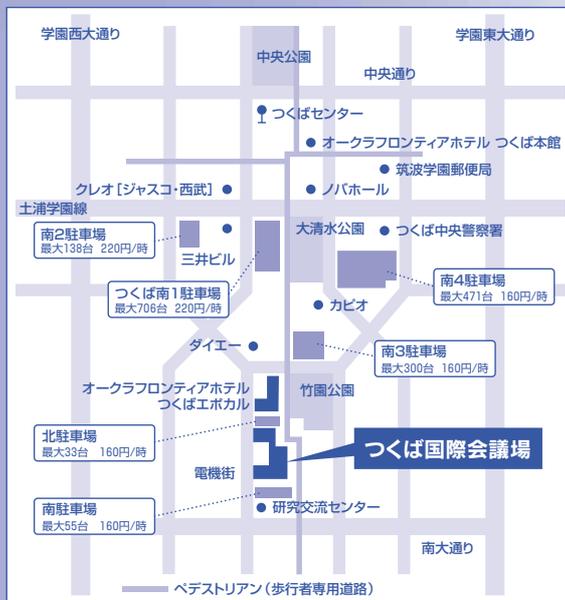
主催 環境省

協力 環境ホルモン学会
(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)

International Symposium on Environmental Endocrine Disrupters 2001

会場周辺地図

map



【会期・会場】
2001年12月15日(土)~17日(月)



つくば国際会議場

〒305-0032
茨城県つくば市竹園2-20-3
TEL:0298-61-0001

【交通のご案内】

■東京から

上野駅 (常磐線特急) → 土浦駅(バス) → つくば国際会議場 約70分
東京駅八重洲南口 (高速バス) → つくばセンター → (徒歩8分) → つくば国際会議場 約65分

■羽田空港から

羽田空港 (リムジンバス) → つくばセンター → (徒歩8分) → つくば国際会議場 約80分

■成田空港から

成田空港 (エアポートライナー) → つくばセンター → (徒歩8分) → つくば国際会議場 約100分
(車) → つくば国際会議場 約60分

参加申し込み・お問合せ

株式会社コングレ内

「第4回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6F
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-3263-4033

E-mail: eed01@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ

環境省環境保健部環境安全課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
TEL: 03-5521-8261 FAX: 03-3580-3596

E-mail: ehs@env.go.jp

ポスターセッションに対するご応募・お問合せ

環境ホルモン学会(正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会)事務局

〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前 24-1-202
TEL: 0298-59-0818 FAX: 0298-59-0851

E-mail: jsedr@mb.infoweb.ne.jp

つくば国際会議場

12/15(土) 一般向け セッション	午後	◎開会挨拶 ・環境大臣挨拶 ・来賓挨拶 ●特別講演 ●第1部 我が国の取組の現状 ●第2部 パネルディスカッション
	夜	(レセプション)
12/16(日) 専門家向け セッション	午前	セッション1 脳神経系機能発達への影響と作用メカニズム
	午後	セッション2 スクリーニング・試験法 セッション3 HTPS/QSAR (ハイ・スループット・スクリーニング /構造活性相関)
	夜	ナイトセッション トキシコジェノミクス
12/17(月) 専門家向け セッション	午前	セッション4 野生生物への影響
	午後	セッション5 健康影響 セッション6 海外の取組の現状 ◎閉会挨拶

※学会主催のポスター発表会を同時開催 (12月14日(金)~12月17日(月))

招待講師

Speakers

国外講師

Mohamed Benahmed	Faculté de Médecine Lyon-Sud, France
Kathleen Cameron	Department of the Environment, Transport and the Regions (DETR), U.K.
Michael H. Depledge	University of Plymouth, U.K.
David J. Hunter	Harvard School of Public Health, U.S.A.
Thomas H. Hutchinson	AstraZeneca, U.K.
Bo Jansson	Stockholm University, Sweden
Herman B.W.M.Koëter	OECD
Paul Lancaster	Sydney Children's Hospital, Australia
Mustafa Ali Mohd	University of Malaya, Malaysia
Deborah C. Rice	Environmental Protection Agency, U.S.A.
Kathryn Tierney	European Commission
Gary E. Timm	Environmental Protection Agency, U.S.A.
Martine Vrijheid	London School of Hygiene & Tropical Medicine, U.K.
Tim Zacharewski	Michigan State University, U.S.A.

国内講師

青山 博昭	(財)残留農業研究所
有薊 幸司	熊本県立大学
井上 達	国立医薬品食品衛生研究所
井口 泰泉	岡崎国立共同研究機構
板井 昭子	医薬分子設計研究所
内山 実	富山大学
小原 雄治	国立遺伝研生物遺伝資源情報総合センター
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所
黒田洋一郎	東京都神経科学総合研究所
近藤 昭宏	宝酒造(株)
田辺 信介	愛媛大学
平原 史樹	横浜市立大学
森 千里	千葉大学
谷田部雅嗣	NHK
吉川 泰弘	東京大学大学院
和田 勝	東京医科歯科大学

※現在、交渉中の講師を含む。

市民向け

特別講演

POPs（Persistent Organic Pollutants：残留性有機汚染物質）による地球的規模の環境汚染への状況やその対策について、ストックホルム大学の Bo Jansson 教授に本年5月に採択されたストックホルム条約の意義なども含めて紹介して頂きます。

第1部
我が国の取組の現状

我が国が内分泌攪乱化学物質問題への対策を開始して数年経過しますが、これまでに得られた最新の成果を紹介します。

第2部
パネルディスカッション

各方面の関係者が一堂に会し、内分泌攪乱化学物質問題への対応を多面的に意見交換し、解決の糸口を探ります。

各セッションの概要

セッション1
脳神経系機能発達への
影響と作用メカニズム

脳神経系機能発達への内分泌攪乱作用は、脳自体の複雑さもあり、未解明な点が多いこれからの研究分野です。本セッションでは、脳神経系機能発達への影響について、その作用メカニズムを含めて議論します。

セッション2
スクリーニング・
試験法

内分泌攪乱化学物質による健康影響や生態影響を評価するために、OECDを中心にスクリーニング・試験法の開発・検証が進められていますが、本セッションでは取組の現状及び今後の方向性について議論します。

セッション3
HTPS・QSAR（ハイ・スルー
プット・スクリーニング/構造活性相関）

現在、多量の化学物質について簡便に短期間で内分泌作用を検出する方法として、HTPS（ハイ・スループット・スクリーニング）とQSAR（構造活性相関）が注目されています。本セッションでは、これらの方法の内分泌攪乱化学物質問題における位置づけ、実際、将来展望等について議論します。

ナイトセッション
トキシコジェノミクス

内分泌攪乱作用により変化することが予測される遺伝子の発現を検索することにより、内分泌攪乱化学物質の生体作用を調べ、予測する研究（トキシコジェノミクス）が注目されています。従来の動物実験や試験管内試験などによる方法に替わって、動物愛護にも貢献する可能性の期待される「トキシコジェノミクス」の今後の可能性についてナイトセッションで議論を行います。

セッション4
野生生物への影響

様々な野生生物種において、内分泌機能や生殖・発育の障害が報告されており、これらの異常現象と内分泌攪乱化学物質との関連について研究が進められていますが、本セッションでは、最新の科学的知見の貢献を行います。

セッション5
健康影響

現在、我が国をはじめとする諸外国で、生殖器官異常（尿道下裂、停留精巣など）等の出現率が変化していることなどが指摘されています。本セッションでは、これらの異常現象について議論を行います。

セッション6
海外の取組の現状

EU、米国、英国、東南アジア、国際機関等における内分泌攪乱化学物質問題に対する海外の取組の現状を報告いただきます。

ポスターセッション

環境ホルモン学会（正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会）主催により、ポスター発表が行われます。（12月14日より）

ポスターでの発表を希望する方は、環境ホルモン学会（正式名：日本内分泌攪乱化学物質学会）事務局までお問い合わせください。

連絡先：TEL：0298-59-0818 FAX：0298-59-0851



内分泌攪乱化学物質については、将来にわたって人の健康や生態系への影響が懸念されている一方、科学的には未解明な点が多く残されており、環境保全上重大な課題と考えています。このため、環境省においては、1998年5月に環境ホルモン戦略計画SPEED'98を策定しました。これに基づき、環境実態調査やリスク評価等を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関等の情報交換を進めています。

この一環として、平成10年度から毎年「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催しています。世界の第一線の研究者に参加いただき、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただいております。

今年度は、テーマを「環境の世紀における化学物質 ～内分泌攪乱化学物質に対する多面的なアプローチ～」としています。そして、本年3月、国立環境研究所（つくば市）に内分泌攪乱化学物質の専門研究施設（環境ホルモン総合研究棟）が完成したことを踏まえ、つくば市において開催することとしました。

今回のシンポジウムの主なねらいは、

- ・我が国の内分泌攪乱化学物質問題への取組の現状を海外に発信すること
- ・国際連携・協調により進めている内分泌攪乱化学物質問題の今後の研究の方向性について議論すること
- ・地球規模の問題であると同時に身近な問題でもある化学物質への対応について各方面の関係者により多面的に意見交換すること

の3点です。

この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政、産業界、そして国民にとって、意義ある会議となることを希望しております。是非とも多くの方々が御参加下さるようお願い申し上げます。

2001年 8月

環境大臣 川口 順子

国際シンポジウムのプログラムについて

本シンポジウムは、2部構成となっています。

15日は、国民に幅広く参加いただくためのプログラムとして、我が国の内分泌攪乱化学物質に対する取組状況を報告するとともに、パネルディスカッションを行います。

16日、17日の2日間は、研究者を対象としたプログラムで、専門的な内容について科学的な議論を深めることを目的とし、セミナー形式で開催いたします。

参加申し込み先

参加を希望する方は、往復はがきに氏名、所属、住所、電話、ファックス番号、E-mailアドレス、参加希望日を明記の上、下記運営事務局（株式会社コングレ内）宛にお送りください。参加費は無料です。

海外からの参加者は、上記と同様の項目について、ファックスもしくは電子メールを、下記運営事務局へお送りください。

運営事務局

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル 6F 株式会社コングレ内
「第4回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」運営事務局
TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-3263-4033 E-mail: eed01@congre.co.jp

締め切り

平成13年11月30日（金）必着（申込み多数の場合は、先着順となります。）
*参加証の発送は、11月以降となります。

使用言語

日本語・英語（同時通訳あり）